

址稱之多賀國府是乃往昔遷多賀城于茲者也其山下西南民舍屋後有小池是所謂十符池也池中
生菅草今猶存焉相傳往時貢薦出于此地又古館東北村落謂之利府利字倭俗別訓謂之登若上野
利根川訓之而謂登瀛川是謂利而訓登字之證也然則十與利元訓相通譯之登音亦有之據此說則
鄉俗誤而訓里字者亦未可知焉於是却知今里婦之音乃誤古之十符者乎固雖非郡縣名其鄉黨之
地亦曠遠而他誤稱之郡縣來歟故舊記數引稱郡縣者亦不審矣然則古之十符實今之利符也後人
詳此焉但惜古貢薦不傳今已無所考之況製作之法亦絕無知之者也自是考之則十符池亦其地近
乎利符又其邊有菅谷村者然則其名之所據亦皆出于此義乎

〔類聚名物考調度四〕十府菅薦 とふのすがこも

世に傳へいへる所は陸奥國より作り出せる筵のあみめ十ある故にかく名づくといへり今は
津輕より造り出せるもとふのすがこもとて世にも名産のやうにいへるものありいかにもそ
のあみめ十あればいへりとのみいへるに今思ふには是は陸奥の郷名なりもとそこより作り出
せし故にその名はありことに昔は菅にて作りしと見ゆ此所とみえて道因法師の歌に陸奥の
十府の浦とよめる歌有にて知ぬこれ必ずしも地名なる事明らけし又野田の菅こもともよみ
合せたれば野田また地名なりそれを三府七府と云よせし也筵の名にはあらず

〔夫木和歌抄二十五〕中務卿親王家五十首歌合

道因法師

みちのくの野田のすがこもかたしきてかりねさびしきとふのうらかせ

河内

〔堀河院御時百首〕霜
霜拂ふ鴨の上毛やいかならん十ふのすがこもさゆるよなく

霰

春宮大夫公實

玉ざゝに霰たばしる冬の夜はいとしぞさゆるとふのすがこも